

昭和四十七年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議録第二号

館山市議會



# 目次

日時	.....	一
場所	.....	一
出席議員	.....	一
欠席議員	.....	一
出席説明員	.....	一
出席事務局職員	.....	一
議事日程	.....	一
開議	.....	二
行政一般質問	.....	二
渡辺軍治郎君の質問、当局の応答	.....	二
石井武敏君の質問、当局の応答	.....	二
安西益男君の質問、当局の応答	.....	二
散会	.....	三〇
本日の会議に付した事件	.....	三〇

一、昭和四十七年六月八日（木曜日）午前十時  
二、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一	番	吉田	勇治郎	二	番	林	豊	
三	番	流山	源次郎	四	番	鈴木	稔	
五	番	近藤	好雄	六	番	栗原	一雄	
七	番	渡辺	昭夫	八	番	石井	武敏	
一〇	番	渡辺	軍治郎	一	二	番	藤田	益治
一三	番	五十嵐	昇	一	四	番	伊賀	多朗
一五	番	和田	一郎	一	六	番	辻井	謹爾
一七	番	宮野	敏朗	一	八	番	安西	益男
一九	番	島野	茂樹郎	二	〇	番	君塚	喜三
二一	番	鈴木	市蔵	二	二	番	田村	源治郎
二三	番	菊井	敏博	二	四	番	西村	真次
二五	番	安沢	徳順	二	六	番	飯田	義男
二七	番	望月	照正	二	八	番	田中	禄郎
三〇	番	速山	ヨネ子					
一、欠席議員 三名								
九	番	辻田	実	一	一	番	山本	昇
二九	番	秋山	六三郎					

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）



昭和四十七年六月八日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開

議 午前十時十一分開議

。議長（吉田勇治郎君） これより会議を開きます。本日の出席議員数二十五名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般質問

。議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行ないます。

締め切り日の六月四日正午までに提出のありました議員及びその要旨並びに順序はお手もとに配付のとおりであります。これより順次質問を行ないます。

なお、この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであります。他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。一〇番議員渡辺軍治郎君。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇）（拍手）

。一〇番（渡辺軍治郎君） 私は財団法人館山市開発公社と館山市の関係、城山公園の管理の問題、し尿くみ取りの公営化の三つの問題について質問いたします。

まず財団法人館山市開発公社と館山市の関係についてですが、第一は四十六年度の開発公社の事業計画書に館山市の受託事業として総合グラウンド用地取得造成事業が載っております。通告質問の要旨の中に昨年八月とありますのは六月の間違いですから訂正願いたいと思います。

昨年の六月の臨時議会での説明ではまだ検討中ということでした。資金計画もなかったのに十二月には総合グラウンドをつくるということ、谷藤原の山林五万坪を、約二千坪残して、反百万円で買収済みになっています。この問題については三月の定例会でその資金計画について質問しましたが、十分な解明が得られませんでしたので、改めてお尋ねするわけですが、総合グラウンドを谷藤原に造成するということはいつきめたのか。また、その内容について十分検討されたのかどうかお伺いします。

第二は、総合グラウンドができなければ宅地造成すると市長は言っておりますが、市の開発計画と開発公社の事業はどこで調整されるのかお伺いします。

第三は、開発公社の四十六年度の利益金については、六日の議会で決算報告の説明がありましたが、引き当て金の繰り入れと繰り戻しの関係について、引き当て金の繰り戻しがないがどうなっておるのかお伺いします。

なお、関連するのでお伺いしますが、宅地造成した場合二年以内に家を建てるのが条件になっているようですが、これが履行されない場合はどうなるのかお聞きしておきます。

二の城山公園のビワの管理についてお伺いしますが、ビワの木の間隔は元千本家の所有地であったようですが、



後海軍の所有になったとき、最初の一年だけ千本家にビワの実を採取することを認め、二年目からはかつてな採取は許されなかったと聞いております。終戦後、海軍がなくなつた後に大蔵省所管となり、城山公園として市の管理にかわつております。公園内には千本家の土地が一部あるようですが、ビワの木の大半は市の管理下にあるのに、ビワの実が一部の人によって独占され金にかえられているという地元の批判がありますので、ビワの所有権はどこにあるのか、管理がどうなっているのかお伺いします。

また関連がありますのでお伺いしますが、公園の頂上のほうに千匹サルの石像とその説明書があるようですが、城山城主とどういふ関係があるのか。史実と違っているようにしたら撤去すべきだと思ひますがどうでしょうか。一部から批判がありますのでお伺いしておきます。

第三のし尿くみ取りの公営化についてですが、三月の定例議会でくみ取り料が値上げされましたが、すでに業者がかつてに値上げしているので実質的な値下げになるが、その監督ができるかどうか指摘しました。市当局は値上げをすれば十分な監督ができると回答されましたが、その後の実施状況を見ますと、条例改定どおり実施されておりません。ある人が条例できまつた料金と違つたと正したところ、次のくみ取りのときに容器の中に黒い液が注入されるといふやがらせを受けております。また一部にはくみ取りが二カ月から三カ月に一回というところもあります。こういうところでは困つて庭に埋めていふと言つております。ある商店では六人で八百円をとられていふます。重量制と人頭割りをどこで定めるのかはっきりしていません。多くの人が、文句を言ひますとく

み取りに來ないとおどされるのをおそれ泣き寝入りしていると聞いております。すみやかに市民の困つてゐる現状からも、環境衛生上からもし尿くみ取りの公営化を求める声が強まつております。一日も早く公営に踏み切るべきだと思ひますがどうでしょうか。つけ加えますが、し尿処理場も能力の限界にきていふ聞いております。この対策について合せて質問いたします。

以上で質問を終わりますが、再質問の中で問題は明らかにしたいと思ひます。以上でございます。

(市長本間 譲君登壇)

市長(本間 譲君) 渡辺議員さんの御質問に對ししてお答えをいたしたいと存じます。

開発公社と館山市との關係は、つまり開発公社は財団法人開発公社といふことでございまして、市が百万円を出資してある、こういうことでございます。

谷藤原の土地買収につきましては、運動公園としても考えたり、また地域開発としても考えてあれを十二月二十五日の理事会において買収取りきめを願つた、こういう訳でございます。運動公園については、いろいろ御意見があることは当然でございますが、いま二、三物色しておるんですが、谷藤原を含めて、そのほか二カ所ないし三カ所ですか、そういうものがあるんですが、それらについてはこの間市会議員の方々に言つて、委員をつくつて先進地を視察してまいつたんですが、近くその会を開きまして位置を検討願ひ、こういうことになっておりまして、運動公園も予定をするし、またそれが同意を得られなければ開発をする、こういうことでございますが、その開発に際して二年以内に家を建てなけ



れば云々という御質問でございましたが、これはその土地によって期間というものは定めていいじゃないかと、必ずしも二年でなくとも一年でもよろしい、場合によれば三年でもよろしい。こういうことで、その地域地域によって条件をつけてもいいじゃないか。家をつくるばかりでなくほかにまた利用があれば、そういう方面にも土地を利用してもいいんじゃないか。こういうわけで最終的には十二月の二十五日の理事会で買収を決定してやったわけでございます。ああいうものはいつまでもぐずぐずしていると、いろいろ買手ができたり何かして値段も高くなる例もありますから、そういう意味において買収を早めてやった。こういう次第でございます。

いつか、渡辺さんの共産党の館山支部ですか、あれに何かピラが出たんですが、税金を、売った人が市のやり方が悪いために恩典に浴されなかったというよりな意味があったんじゃないかと記憶していますが、あれは、ああいうところは税金の免除の対象にならないわけでございます。まず、強制買収をするような土地であって、大体が学校の敷地でやむを得ないところに対しては千二百万までをこれは免除ができる。こういうことになっておるんですが、いまの真倉の地所についても税務署という話をしたけれども、それは適用しないということであつたわけですので、この点も御了承願いたいというふうに思っています。

それから開発公社関係につきましては、おともいも詳しく説明をして皆さんに報告をしてあるとおりでございますが、いまの数字的な詳しい点についてはここに常務理事の伊藤理事がいますからあとで答弁させたいと存じます。

それから城山のビワの件でございますが、あれはお話しのようには海軍が買収したところでございまして、市では四十四年の三月から無償貸し付けを国からしていただいて、あれを公園化した、こういうわけでございます。クジャク園のまわりにもビワの木があらってなっています。あれはクジャクやサル何かの飼料としてやっておるんですが、あの南東ですか、いまお話のところにもございますが、あれについてはどういうふうに海軍との話があったかどうか知りませんが、そこまではまだ調べませんけれども、とにかくあれを植えた人がさっきお話のように近所に植えてあるそれと一緒に取っているんじゃないかと思えます。

その当時海軍との話がどうなつたんですか。私は皆私がもらうと言つたんだかどうか、その点はわかりませんが、その点につきましてはいまは海軍たつてしょうがないから大蔵省ですね。大蔵省やなんかとそういうことがあつたかどうか聞いてみるとそういう公約でもあればやむを得ないと思えます。

市民から見たら市の管理しているところからビワを売るというのはちょっと具合が悪いと思えます。これにつきましてはそういう機関に昔のことを聞いて、また千本さんですか、その方ともこれから聞いて、そして、そういう約束や何かあつたとしても市で管理していますから今後はそういうことのないように話し合いをするし、また国の管財局ですか、とも話をして、そういうことで市民の疑惑をいだかないような方法に改めてまいりたいと思っております。

それから、いまの千匹ザルですか。あれはあそこに里見の碑があつたそうですが、あれはもう撤去したそうです。私もあまりそ



ういうことは、むずかしいことはわからないですけれども、やはりどういふ関係か現在撤去してあるそうですが、御了解願いたいと思います。

それから、し尿処理の市営にしたらばという御意見のようでございますが、三月からは従業員の待遇改善と機械器具の近代化というようなことで料金を値上げをしてもらったわけですが、いまの業者はその線で待遇を改善したし、それからくみ取りもだいぶ近代的にいろいろ改善したわけでございます。いまの人頭割やなんかについてもいざごさは多少はあるそうですが、いろいろ衛生課においても住民から意見を聞いて、それによって一そう改善をしよう、こういうことでございますから、いろいろ御不満の人はすぐ衛生課と連絡をとっていただきたいと存じます。

それで現在は一社によってやっていますから、とかくいろいろ批判される面もありましようけれども、市といたしましては一社だから言いたいようにさせるというようなことは決してございませんで、許可条件を守らなければ、何度言っても守らなければ、また他に業者も許可をするし、そうして市民の心配のないようにやってもらうことを考えておりますが、市の直営というのを考えてみますと、やはり現在の業者がどうしても改善をして、幾ら言ってもしてくれないというような時点になれば、そういうことを考えていかなくちやならぬと思いますが、あの仕事は市営にしたからといってなかなかむずかしいことじゃないかと思えますけれども、現在のところはここの言うことを聞いてやってくれますから、どうしてもいけないことが数重なれば、市営についても検討してまいりたいと存じます。

落ちた点がありましたら、また再質問で答えしますからどうぞ。

企画課長（伊藤幸太郎君） 引き当て金の関係でございますけれども、前年度分の損益が生じなかった場合には翌年度におきまして戻入してございます。そのような方針でやっております。

それから住宅の分譲の関係でございますけれども、これは契約の中で二年以内にすまいを建ててもらいたいという契約は従前やっております。しかしながら買って下さいました土地の中には若干の事情もございまして、場合によりましては事情を勘案いたしまして、若干の延期というようにすることも認めておるわけでございます。これはごく少数でございますけれども、中にはございます。

もし、この点特別な理由もなしに、それからまた、相談を受けてましてその理由が認められない場合は、契約をしてございますとおりに原価で公社のほうでその土地は引き取るというように契約を進めておるわけです。そんな事情でございまして、よろしくひとつ。

一〇番（渡辺軍治郎君） 再質問いたしますが、私の開発公社と市の関係を聞いている要点は、これは要点だけひとつ時間がありませんので答えてもらいたいと思うんですが、公社に市が委託事業として出す場合、その場合には地方自治法から言っても、まず設置団体という市の側がその事業の計画内容的にも、あるいは資金計画といいますが、財政計画、そのようなものを、まず市の側の議会の議決なり、これにそういう承認を得た上で開発公社に出さなかったら、これはこの前の十二月の議会でも指摘されたよう



に、議会が知らないままに買収がどんどん進められているという問題になったわけです。

まず公社に委託をする場合、公社は委託を受ける側ですから、市のそういう方針がはっきりしなければ、これは受けるわけにはいかないと思うんです。そういう点で私が聞きたいのは、そういう委託する、受託するという市と開発公社の関係についてお伺いしているわけなんです。

たまたま谷藤原の問題が、この前の十二月の議会でも問題になりましたように、それから三月でも問題になったと思うんですが、知らないうちにそういうことがやられているということでは、地方自治法の立てまえから言ってもわれわれには見当がつかないわけです。また市長さんはこの前の議会の答弁では総合グラウンドができなければ宅地造成すると、こういう計画の変更があるわけです。その変更も、変更する場合、廃止する場合には設置団体としての市のまず議会で決議し、あるいは協議しなければ、そういうことはできないことになっているわけです。ところが何か、市長さんの言っていることを聞いてみると、総合グラウンドができなければ宅地造成だと便宜的な扱い方だ。

それから十分にそれが、まず市の側で討議されないで、理事会で討議される。公社自体の仕事だったら理事会でもいいと思いますが、たとえば分譲土地のような問題は公社でやってもいいと思いますが、少なくとも市が委託する事業については、その委託の内容なり、計画なり、そういうものが議会の中で十分討議されなければ、これは大きな予算を伴う問題ですから、そういうことが知らないうちに進められたのでは困るわけです。そういうことが事

実やられておりますので、その点をお伺いしているわけです。総合グラウンドをつくるということは、これは六月八日に前年度の事業計画の中に出ていたわけです。しかしこの時には空欄になっておいて、これは検討中だということだったわけです。それが理事会のほうを見ますと、八月の七日の理事会では総合グラウンドを、予定用地の購入について議題にしておりますけれども、これは八月七日でありまして、八月二日には臨時議会が開かれているわけです。だから、もし開発公社に総合グラウンドの予定地の購入というようなことが、これが理事会できめられるならば、その事前の八月二日の臨時市会には、その内容や計画、財政計画、そういうようなものについて報告されて、市の側ではっきり総合グラウンドをつくるという建てまえでいくならば、これは事業計画というものが必要になると思うんです。要するに事業計画、その上に立った事業認定、そういう立場で用地の買収を進めれば、これは明らかに公共用地と思うんです。そこで税金の問題もからんでくると思いますが、そういう事業認定もとっていない。ただ総合グラウンドをつくるんだから土地の買収に応じてくれ、地元の人や市が総合グラウンドをつくるためなら協力しましょうということで、やったわけで、私のほうの民報に出したのは、そういうことがあとですぐ宅地造成ということにひっくりかえっているから、それで市民をだました谷藤原の宅地造成という見出しで出したわけで、税金の問題が公共用地として買収された場合には免税点がありますよ。一緒にこれにつけ加えただけでこの問題でどうこうということは書いてないわけです。問題の要点は、そういう要するに委託事業に対する市と公社の関係について回答がないわ



けです。その点をはっきりさせたい。

それからもう一つ、決算報告の繰り戻し金の問題ですが、これは利益金と関係があるのでお伺いするわけですが、今年度の湊団地の舗装の先取りという説明がありましたけれども、引き当て金として五百九十四万四千五百五十四円、これが計上されているわけです。それから前年度の引き当て金の合計が七百八十六万八千五百五十九円、こういうふうな前年度の引き当て金が引き当て金として出ていけば、当然決算報告の中で繰り入れた引き当て金は繰り戻して新しく繰り入れる引き当て金を計上すべきだと、こういうふうに思うんですが、そういう点がはっきりしないのでお伺いしたわけです。

先だつての説明では財産目録の中にある分譲土地の二億九千四百一十九万七千五百円、この中にこの引き当て金に相当するものが含まれているかどうかということをお伺いしたんですが、これには含まれていないという、そういう回答がありました。しかし、この引き当ては舗装の先取りということで出しているわけですから説明によりますと、宅地造成した場合に、この先取りした分は土地の価格に含まれると、こういうことでありましたので、この引き当て金は、今後分譲土地の価格の中に含まれる。要するに売り上げの中に入るから、引き当て金が決算報告に繰り戻しとしてないのか、この点がわからなかったのをお伺いしたわけです。

この前の決算報告を見ますと、二カ年間で一千七百七十三万六千九百円の利益金が一カ年間であるわけです。今年度の利益金を見ましても百七十三万三千四百七十七円という利益金があつております。しかし、五百九十五万八千円という、この引き当て金は次の

年度の売り上げの中に解消されてくると、売り上げの中に含まれていくということならば、おそらく実質的な利益が五百九十五万八千三百三十七円になるわけです。ですから前々年度から本年度の利益金を見てみますと、相当大きな利益をあげている。公社の仕事が利益を追求する、そういう仕事ではないと思うんです。これは第三条の立てまえからみましても、市の開発、市民の福祉という立場に立つて開発公社は仕事をしているわけです。

分譲土地のような地価の値上がりのはなはだしい中では、安く市民に分譲するという建てまえをとるならば、こんなに利益はあげなくてもいいじゃないか。少し利益が大きすぎるのではないかというのが、大体質問の要旨でございまして、そこで引き当て金の問題をお聞きしたわけです。

それから城山公園の問題ですが、これは地元から投書がきて写真をとつたやつもきているわけですが、海軍で建てた境界線の標式が厳然としてあるわけです。地元では市に聞いても誰も境界線を知っている者がいないということで境界線があい昧になっている。

そういうようなところから、ピワを取りに市の管理している中に入つて、それを売って金にしているというようにすることが批判されているわけで、これは鉾山市の管理の問題であつて、十分な管理がされてない。境界線もはっきりしてない。こういう点で市の管理を十分にさせる必要があるんじゃないか。

それから公園の千匹ザルの問題ですが、撤去したそうですからいいんですが、あそこに麗々しく、史実とあまり関係のない記述が白い看板、そういったものに書かれているのはみっともないというところで、地元から批判があつて、これは取りはらったそうです。



からけっこうですけれども、境界線の問題をどうするのか、そういう点ははっきりさせてもらいたいと思います。

ちよっともとへ戻りますが、開発公社の分譲土地に対する、二年間のうちに家が建たなければ市が買い戻すということを言っておりますが、長谷川検事が長須賀の市の宅地造成したところに土地を買っておりますが、これはすでに二年をこえていると思われると思いますが、その点はどうなっているのか。

また宅地造成、要するに長谷川検事が買った土地の先の埋め立てが進行しているようですが、開発公社が宅地造成をした土地につくった堤防が、どてが二カ所ぐらくずれているというようなことで、市の宅地造成したところがこわされてきます。こういうようなことについて、どういうふうに市のほうでは管理しているのか、これは相手が法の番人としての検事だけに、そういう問題について明らかにしてもらいたい。

それからし尿の公営化ですが、市長さんは許可条件を守らなければ許可を取り消してほかの業者にも、というよりなことを言われておりますが、この許可条件が実際には守られていないから、それで市営化してもらいたいという市民の要望が出てきていると思ひんです。これを市営化するという場合でも、それだけの準備がなければ、これはできませんので、いまのくみ取り業者が一社独占で相当横暴だということは定評のあるところですから、市ではそろそろこれはかえなければならぬという考えはおありと思ひますが、そのための準備をどういうふうにこれからやっていくとしているのか。もし許可条件を守らないで勧告してもしたくあなければ、それを取り消すといってみたとところで、ほかに業者が

なければできないわけですから、そういう点についてひとつはっきりと回答を願いたいと思います。

企画課長（伊藤幸太郎君） 引き当て金の関係でございすけれども、いまお話しにありましたところの湊団地の舗装代金の先取り分でございすけれども、これは将来舗装工事が実施されるわけでございすので、これに引き当てるべく予定したわけでございすので、この部分の最終的な利益というものはないように私は考えております。

それから次の長須賀団地の関係でございすけれども、ひととおり御説明申し上げますと、当初名前がはっきりいたしましたので名前を申し上げますけれども、長谷川さんという方が当初二十二号区画が当選なさったわけです。そうしますと、その後土木事務所との道路の關係の打ち合わせの際に、少なくとも二十二の区画の近所に回轉の場所をつくるべきだ、そうしないとうまくいかないというような協議が出たわけでございすので、いろいろ私たちも一たんお売りしたものを、お約束したものを、これを取り消すということも非常に忍びないということで、いろいろ苦慮したわけですが、たまたま現在のお話の場所が棄権されたわけですが、でありますので、それではいまの場所と取りかえてもらえないだろうかということで、いろいろ打ち合わせました結果、心よく承知していただきましたので、現在の場所に契約を結んだわけでございす。そういうようないきさつがございす。

それから、いまのお話の中で御指摘のとおり隣接の農地との境に約一メートル程度の堤防用地が、公社のものがございす。あります、あれを拡張します予定の中で公社のほうに對しまして、



これを譲渡してもらえないだろうかというように申し入れがあったわけです。で、私どももこの提防につきましては、将来関係の地先の皆さま方に事情によりましてはお売りしたいというように考え方を持っておったわけでございますので、そういう申し入れに對しまして一応お受けしたわけです。

しかしながら、いま申し上げましたとおり、すぐさまお売りするということはまだ公表してございませんので、しばらくの間お貸ししておきましようというふうなお話合いの中で、今度新しく拡張されます用地の埋め立てを開始したというふうな事情でございます。

で、期限の問題でございますけれども、これはそういう、最初申し上げました事情によりまして、昨年の三月の末に正式の契約をいたしました。でありますので、二年間というのは、過ぎた三月の末で期限の二年間が過ぎたわけですから、いま申し上げたような事情でございますして、特に埋め立てを完了した上で、あそこ新しい家を設計したいのでしばらく猶予してもらえないだろうかというふうな事情でとくと相談を受けましたので、それでは、そういうような事情ならば、しばらくお待ちしてみましようというふうなことで、若干期限を延期してございます。そういうふうな事情でございますので御了承願いたいと思います。

で、そういう特別な理由がない場合におきましては、契約にもございましており事情によりましては、利息等も付けないで、その土地を引き取るというふうなことでございますので、当然特別の理由がない場合におきましては、公社が引き取るというところで考へておるわけです。そんな事情でございますのでひとつ御了承願

いたと思います。

○市長（本間 譲君） 先ほど申し上げましたとおりですが、それじゃいけませんか。

○一〇番（渡辺軍治郎君） それじゃ納得できませんね。

○市長（本間 譲君） あれは開発公社で谷藤原は、総合グラウンドやなんかを予定して、一応買ったわけでございますが、正式の市のほうの了承は取りつけてまだないわけです。ですから、これがそういうふうに採用できれば、それでよろしい。採用できなければ地域開発しようということであるわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） し尿問題について、公営化する考えはないかという質問が残っておりますが。

○市長（本間 譲君） 公営ということはこれはなかなかいいことでございますが、やはり市民の方が請け負ってるし、どうしても言うことを聞かないということがあるれば、それはやらなくちゃいけませんけれども、やっぱり市が指導して、その線に沿っていつておるわけですから、市民の間から多少のことは、それは広い範囲ですからあります。必ずしもその人の言うことが妥当であるか、いろんな場合がありますから。ですから、それを一つ一つよく調べてみないとどっちが悪いか、いいかということとはわからない面もあると思います。

いずれにしても、衛生課ではそういう市民からの訴えについては、早速行って調べて直すべきところは直して、そうしてやらせるようにしておるわけでございますが、いまから直営を用意して積み立て金をもってやるというふうな考えは現在はおもってありません。



○二〇番（渡辺軍治郎君）

市長さんに私が聞いているのは、要するに市の委託と公社の受託の関係なんです。市長さんは、これは総合グラウンドができれば宅地造成開発計画というようなことを言っていますが、これはそこで変更になっているんですよ。最初の計画は総合グラウンドをつくるということを、これは理事会でもそういうことを決めているわけです。そういうことは六月の、七月ですか、そういうことをきめているんですが、議会のほうはそういうことを知らないわけです。要するに市が公共事業として予算を伴う問題ですから、それは当然市の側でもって開発計画、あるいは財政計画を含めて、そういうものができて、それを公社に委託するというような、そういう建て前になっていない。市長さんは民主々義ということをお口にされるけれども、これは議会軽視もはなはだしと私は言いたいわけです。要するに市の側が、地方自治法からみても、そういう事業計画は市の議決を得るということを言っているわけです。そして、協議の上でそれを開発公社に委託する。そういうことが全然やられていない。それから変更する場合でも、自治法ではそういう場合にも議会の議決と協議を経るというふうに出ているわけです。市長さんの考えは何か便宜的に総合グラウンドということでは、そういう問題が、あとで運動公園の問題が出てきたわけですが、そういう問題を今までは市長さんの頭の中でしか考えられていないで、それがどんだん市長さんの考えで進められて、議会のほうは何にも知らない訳です。議会軽視にもつながるんで、そういう点を今後どういうふうに市長はやっていけるのか。その点について。

市長（本間 譲君） 議会軽視していませんよ。これは買うのは

公社が買ったけれども、いろいろそういうことを予定して買ったけれども、きめるのは議会ではかってきめなくちゃいけない。そのために神奈川県方面に代表の方が十名だかで視察に行って、どういうふうにやったらいいか御調査を願っておりまして、それでその結果よろしかったら全体の協議会にはかって、そうしてそれをきめていこう。こういうわけで、きまらないうちに運動公園になんかしませんよ。

買うことは公社で買っているんですから、そういうことを一応考えて買ったって悪いわけじゃないと思います。地所を買うのは、あそこは今度は予定地だ、予定地だと騒いでやれば値段がアップして困るんです。よく考えてみればほめられていいじゃないかと、こういうふうに考えているんですが、公社自体が買うことはいいじゃないかと。皆さんが承知してくださらなければ、くださらないで、これは公園にならない。それでいいわけですね。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私が開いているのはそういうことじゃないんですよ。一応委託事業として公社に渡す場合には、その前に議会の議決、あるいは協議を経て、これは当然予算を伴うわけです。それから、長期にわたる今年度の歳入歳出予算に入れなくても、債務負担行為というように、財政計画が当然伴うものを議会の承認なしにどんだん進めるといってないき方ではなく、要するに委託すべき事業の内容なり計画が、そういうものがはっきりした上で買収をして、そういう公社のほうに、事業を進めることをやってもらう機関に委託するわけです。公社は具体的なものがなければ受託できないと思うんです。そこらの関係をやってないから言っているわけです。



いま出た運動公園の問題は、そういう問題が出たあとで全員協議会で困って出したわけで、その前には何の話もなかったわけで、そのところを言っているわけなんです。どうなんですか。

。一〇番（渡辺軍治郎君） 回答がないんで、これは困るんですが、時間がないんで、いつまでもそのままにしておく。

次のくみ取りの問題にいきますが、市長さんは何回も監督をして監督を聞き入れなければということで許可を取り消すこともある。いま何とかやっているから、いまそういう時間ではない。こういうような回答ですが、実際にはそちこちで苦情が起きているんですよ。

それから衛生課のほうではくみ取りについての人頭割り、あるいは事業所とか、そういうような調査をすでに進めて、ある程度のデータもあると思うんですよ。ですから、それから推定して一体くみ取り料金がどのくらい集まるのか、それによってこのくらいの事業ができるのか、独占にまかしておくというような、そういうことが悪いということとははっきりしているわけですから、それにかわる準備をするには、やはりそういうデータをもとにして市の側が一応営業が成り立つのかどうか、そういう点はもう準備の段階に入っているのではないかと。しかし実際にこの間調査した資料に基づいて、おたくは重量制だと、おたくは人頭割りだと、そういうようなことは市の側で監督していません。業者がかってに、おたくはコンクリートで便槽ができていますから、雨が降ると水が入るから、二人ぐらの家庭でも重量制だといっているわけです。雨が降ると水がたまるということを口実にして、重量制に業者がかってにやっている、こういうようなことがやられ

ているわけですから、くみ取りを二カ月に一回は行く、二カ月経ってもいかないうちのようなこともあるわけです。前から引き続いて、ずっと料金改正後も出ているわけですから、そういう市民の困っている状態、これは放って置いたら環境衛生上も、これは大きな問題が発生するわけです。そろそろ市の側では公営化の準備をしたらどうか。そのための調査もやっておるわけです。その点は今後ひとつ検討してもらいたいと思うんです。

それから市長さんの御答弁がないんですが、これは実際、やったことはまずかったかもしれませんが、今後はそういうようなことはやらないと、事前に、市の事業計画については議会にはかかって、そういうものを財政計画を含めてできた場合に、公社に委託すると、公社もそういう立場に立って委託を受ける。それを理事会で検討する。こういうような方向にやっていくのかどうか、この点。市長（本間 譲君） 従来は市の事業を頼む場合には予算化してそれをやって、大道路とか、建てるもの、市のものですが、やっておるわけです。谷藤原のあれは開発公社が買ったわけで、その点は、私は、言われればいろいろ理屈もあるでしょうけれども、別に買ったことについて、それはいいじゃないかと思うんです。そして、今後市会の方にはかって、そこで適当でないということになれば、それは運動場として使わなくても地域開発にもっていきますから。とにかく私はあれだけのものを早く入手したということはいいいと思いますけれども、そこに渡辺さんと私の考え方の相違がございまずけれども、いずれにしても現在までの仕事は全部議会を通して、いろんなことをやって、受託事業をやっておるわけです。



とにかく、あなたからそういう希望がございましたから、今後はその線に沿ってやってまいりたいと思います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） いま言っているのは四十六年度の委託事業としての計画には総合グラウンドをつくるということが載っているんですよ。四十七年度の公社の事業計画を見ますと、これが分譲土地の計画の中に入って、いつの間にか総合グラウンドをつくるという市の委託というものがなくなっているわけです。こういうふうなことがわれわれの知らないところで、議会の知らないところでやっている、これは地方自治法に違反するわけです。こういうことをやっているから、いままでと同じように、谷藤原の問題がたまたま出てきたんですが、こういうようなことが今後もやられると、相当の予算を伴う問題が議会の知らないところでやられると、困るわけです。

○議長（吉田勇治郎君） 発言中ですが、時間ですので簡明に。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この点一つはつきりしていただきたい。

○議長（吉田勇治郎君） 一〇番議員さん一応これで終わらしていただきます。

次、八番議員石井武敏君。

（八番議員石井武敏君登壇）（拍手）

○八番（石井武敏君） 私は通告しておりますように、まず市有財産の管理について御質問いたしたいと思っております。

地方自治法の公有財産に関する長の総合調整権をうたっている第二百三十八の二には次のようにあります。すなわち「普通地方公共団体の長は、公有財産の効率的運用を図るため必要があると認めるときは、委員会若しくは委員又はこれらの管理に属する機

関で権限を有するものに対し、公有財産の取得又は管理について報告を求め、実地について調査し、又はその報告に基づいて必要な措置を講ずべきことを求めることができる。」とこのようにありますが、当市におきましても市有財産の適切な管理運営は、市民の公共福祉に大きな影響を及ぼし、万が一、その管理運営を誤まれば、その公有財産の価値は半減していくものもあると思われ

ます。それらの理由により、市当局はこれら財産の管理運営をどのような具体的な方法をもってあたっているか、お聞きしたいと思うのであります。

また、でき得れば、市有財産の面積、地目等その概要を御説明願いたいと思います。

なお、再質問において何点かお尋ねしたいと思うのであります。それは土地台帳に記載されている分筆面積と、実際に使用されているものとの食い違いはあるかどうか。あるいは使用目的が当初の契約どおりのものが、途中でその目的の変更がされたものがあるか。いわゆる契約と現実との間に生ずるギャップ、あるいはそれらの正確度、また活用しきれないで死んでいる市有財産はあるかどうか等についてでございます。

地方自治法第二百三十七条に財産の管理及び処分について「普通公共団体の財産は、条例又は議会の議決による場合でなければこれを交換し、出資の目的とし、若しくは支払手段として使用し又は適正な対価なくしてこれを譲渡し、若しくは貸し付けてはならない。」こととあります。私は市有財産に対していままでのどのような管理がなされてきたか、また今後どのように運営されてい



くのか、その方向をお尋ねしようと思っております。

次に通学路の整備拡充についてでございます。最近著しく上昇の一端をたどっている交通事故から学童を守るという政治姿勢はたいへん重要であろうと思います。ちなみに館山市の事故発生件数を調査してみますと、事故の数は、四十六年は前年と同じ四百四十六件でありましたが、死傷者に至っては前年より五十四名増加しており、約一〇%もふえているのであります。事故の発生場所としては、館山市の中心である北条地区での発生件数は全事故の四一%を占めています。それで郊外地区はどうかと申しますと、郊外地区の道路状況がよくなったのに、加えて市街地の混雑から出た開放感から、つい高速運転になってしまふのが大きな事故原因になって、市街地も郊外地もともに油断できないのが現状でございます。

また事故統計で年間のその内容を見ますと、死亡十六名、全治六カ月以上が十二名、三カ月から六カ月の間が二十五名、一カ月から三カ月の間が八十四名、一週間から一カ月が四百六十九名、一週間未満が十四名というように内訳けされております。

そして事故発生のも多い時間を見ますと、これは午前より午後に非常に多く発生しております。

こうしたひんばんと発生する交通戦争を背景に学童たちは朝に夕に通学をしているわけです。黄色い小旗を手持って車のを待って、やっと見つけた車の間隙をぬって道路を横断している、これらの学童の姿を私たちは日常茶飯時のように見ることがあります。

私はこれら通学に際し危険と思われる個所を市当局は総点検し

たかどうか。またそれらの個所に対してはどのような具体的な措置がなされているかどうかお聞きしたいと思っております。

また通学路そのものの整備も遅れている個所があるようですが、それら通学路のチェックはなされているかどうか、合わせてお尋ねしようと思っております。

とにかく市内を総点検したところによれば、通学に際してその危険性を減少させるために、押しボタン式の信号機の設置が急務であると思われる個所も数箇所あります。これらの個所が県道であれば県のほうで設置し、管理をするものであります。これらの問題の取り組み方が、県がやるからいいのだという第三者的な客観的なやり方では、いつまで経っても解決をしないのではないかと思います。事実交通災害を受けるのは市民でありますから、あくまでも主体的にこれらに取り組んでいかなければならないと思っております。

これは私の体験でたいへん恐縮でございますが、船形の安房児童学園前の信号機、あるいは八幡神社前の信号機、あるいはシーサイドハウスわきの信号機の設置を県のほうへ要望したものであります。私は信号機設置してもらいたいという市民の声を、一つの市民運動としてとらえて、署名運動を転回してみたいのであります。市民の要望の高まりと、その交通事故防止に關しての市民の意識の盛り上がりは、今後の交通対策には欠くべからざるものだということを、私はこの時学んだのであります。

要は交通対策の取り組み方に、市当局は決して客観的であってはいらないということでもあります。これらに主体的に取り組む、市民、特に将来ある学童の生命の安全を確保していただきたい。



このように切望するわけでありす。

以上、市有財産の管理について、及び通学路の整備等々について明快なる答弁を承りたいと思います。以上でございます。

(市長本問 譲君登壇)

。市長(本問 譲君) 石井議員さんの一番はじめは、市有財産の管理ということの御質問でございましたが、館山市はよくできているかどうかはわかりませんが、これについては方々から視察照会等もあるわけで、まあ管理状況はまあまあというところじゃないかと思っておるわけでございます。

それで、現在の土地の件ですが、古いときからの経過でまだ二、三はつきりしない土地があるわけです。これにつきましては、これからよく検討して、これをはつきりさせたいというふううに考えておるわけでございます。多分、それは那古か船形じやないかと思いますが、二、三ずつと昔の町の当時ですから、ずつとどうもうまくいってないらしいですが、それは至急に、こういう機会にひとつ解決をしていきたいと考えております。

庁舎とか中小学校の敷地の行政財産については、約二十一万八千四百八十五坪を関係課においてそれぞれ管理しておるわけでございます。

それから普通財産については、財政課において管理しておりますが、各所に散在しております。合計で二百七十四筆で五万二千二百四十五坪でございます。これは財政課において管理をしておるわけでございます。そのうち七十四件を貸してあるわけですがその坪数は九千三百二十四坪を貸し付けをいたしまして、財政課でこれを管理している。こういう実情でございます。

私が申し上げた説明で不足の点は、また課長から答弁させますが、御質問の、追質問のときお願いいたします。

それから通学路の整備についてでございますが、これはきわめて重要なことでございまして、市でもおっしゃることに先んじて児童を交通事故から守る、こういうことでやっておるわけでございます。現在は各学校ごとに通学路が指定されておりますが、この整備については学校、その他関係者の要望と相まって重点的に実施をしておるわけでございます。

通学路の点検については学校、土木課、交通課等におきましてこれを実施して、遺憾のないようにやっておるわけでございます。ことに本年四月は交通安全運動がございましたので、その一環として各学校の全通学路について警察、県土木課、安全協会の関係機関が連携を保ちながら、これを再点検をして不備な点についてはこれを改善すべくやっておるわけでございまして、とにかく児童を交通事故から守るということはきわめて大きな問題でございまして、市においても交通課を設けまして、これに対処しておるわけでございます。

簡単でございまして、要領を得たかどうかわかりませんが、交通課長その他おりますから、詳しいことにつきましてはまた再質問の際にお答えさせていただきますと思います。

。八番(石井武敏君) 再質問いたします。市有財産の管理等々につきましては、まず次の点を質問したいと思うのですが、市にございます土地台帳面積と実測の面積の差でございましてけれども、これは実測すれば相当数の面積がふえる見込みの土地があるように思われます。これは当然でございますけれども、この実測に現



在着手をしているのかどうか。また、実測の必要性をどういうふうに考えているかということでございます。市にございます構図は明治十八年ごろに作製されたものであるように思いますけれども、これら実測に対してどのような見解をお持ちなのかお聞きしたいと思います。

第二点目は市有地におきまして、隣接している土地等の境界線の設定等、それらの問題が非常に複雑な問題を起しやすいわけでございますけれども、この境界線の総点検は現在しておりますか、どうですか。していただければ、この整理は何割ぐらい完了しているかどうかお尋ねしたいと思います。

それから第三点目には市有地の又貸しについてでございますが、市当局と契約したものが、みずから使用せずに第三者に貸し与えているという市有地がこれまでの調査の結果あったかどうか。教えていただきたいと思ひます。

それから次に、第四点目ですけれども、先ほど市長の答弁にございましたところだと思ひますが、那古町の八四六番地の一宅地三百坪、三十一年三月に市有財産として管理をしているわけでございますけれども、これらの名義がいまだに市の名義になっておりません。これらはどういふふうになっているか御説明願ひたいと思ひます。

それから五番目には、市が貸し付けてある土地の中に那古小学校の学校林があるはずでございますが、これは貸し付けた当初、学校長と、当時学校長であった岡本氏との間に契約がかわされていると思ひますが、その契約の内容をお尋ねしたいと思ひますのでございます。

以上、五点について質問いたします。

。財政課長（長谷川広治君） 土地台帳面積と実測の差ということでございますが、これは必ずある程度実測すればなわのびというもの、いままでの例から申し上げますと九九％程度でございます。現在、市有地につきましては六四％程度のものが実測を終わっております。終わっているものについては、それぞれ坪数の訂正表示を行なっておりますが、残りにつきましては漸次事務のあい間をみて実測しているという状況でございます。もちろん実測の必要性は十分考えております。そのために三年ばかり前から特に一名を入れましたっております。

それから境界線等の協議と申しますか、紛争等の関係ですが、これも財政課に所管されましたから漸次行なっているわけでございます。これも約四〇％程度のものは終わっておりますが、あと残りの六〇％程度については現状の境界線をそのまま用いているということでございます。

それから非常に境界線の決定というものは法律的な問題でして、単に話し合ひではできないということが、われわれ事務屋の上からみますと、事務のあい路になるということです、これなんか機会ある毎に、じゃあ境界の確定をやってくれということと事件やあい間をみまして行なっておりますので、これは日時の関係が若干延びるのかもわかりませんが目鼻はつくと思ひます。

それから市有地の又貸しは、私どもが引き受けましてからは二件ございました。二件のうち、一件は親子と申しますか、親の名前で借りて、その親が死亡してから子供がつかつておったということ、これはそれぞれ払い下げを受けていただまして解決を



した。あとの一件は、これは他人でございますが、名義変更をいたしていただきまして、貸借ということで処理をいたし、その後その土地を払い下げてあるものでございます。

それから那古の市有財産と申しますか、共有財産の名義変更の關係であろうかと思いますが、これは三十一年の三月に議会におきまして寄付の受け入れをいたしましたわけでございます。その当時の状況を聞いてみますと、市有と申しますか、共有のためになかなか売却等もむずかしい。これを市に寄付して適当に処分をし、那古町のためにつかっていただくというような状況で、名義が簡単になおるといふような予想のもとに寄付もし、受け入れをしたようにございます。その後私も引き継ぎましてから、法律的に検討してみますと、これはそういうことじゃできないということとで、結局民法の時効による所有権の移転以外には方法はないということと考えて、これをまあ二十年か十五年かどっちをとるかにしても違いますが、大体私どものほうは悪意による占有ということで十五年説でできるんじゃないかと考えております。三十一年に寄付の受け入れをいたしますので、一年ぐらいのものは、そういう時効の時期ということにはみなされないというような考えがございまして。来年の三月でなければ十五年の期間が経過をしないということになりますので、その後名義変更ということになります。

それから那古小の学校林の關係でございしますが、これは那古小の創立百周年の記念事業をやる事業資金として、もとの区有の山を市が引き継いであるわけですが、それは千五百坪貸してもらいたいということで、学校林管理委員会というものをつくりまして

当時いまでも委員長は和田金次という方でございますが、その者と市長との間に三十年四月一日だと思えますが契約をしています。契約の内容といたしましては、費用についてはと申しますか、あるいは管理費用については、一切委員会側で負担する。そして、その山林の売却をする場合には市の予算に受け入れをして、市が売却をし、その額をもって百周年の記念事業費に全額予算計上してもらいたいという契約内容でございます。使用料は無料ということになっております。

以上、簡単にございますが、説明を終わります。

。八番（石井武敏君）　まず実測に関してのことでございますけれども、ただいまの御説明では六四％の実測が終わっているということでございます。また三年前から一名の増員をやっているということでございますけれども、非常に調査員が少くないような気がいたします。これでは今後相当長期間にわたるのではないかと予想されます。財産の管理上、これらの調査員の増員をはかるべきではないかと思えますけれども、今後の方向づけはどうでしょうか。この点をお聞きいたしたいと思えます。

それから境界線につきましては、これは非常に、ただいま御説明がありましたようにむずかしさがございます。しかし、むずかしいからといってあまり先に延ばしていると、問題の根が深くなりまして、なかなか解決が困難になる予想がされますので、これらの問題には積極的に取り組んでいていただきたいと、このように要望いたします。

それから又貸しについてでございますけれども、二件又貸しがありまして、一件は第三者に又貸しをしたと、もう一件は肉親で



あったということでございますけれども、このことにつきまして  
は市当局としては近親者の範囲で、民法に定めている六親等以内  
の親族なら貸してもよろしいというような範囲を設けているかど  
うか。あるいは、これらについては市当局としてはどういう見解  
をもっているか。このへんをお伺いしたいと思います。

それから那古の共有地、共有名義になっている土地がござい  
ますが、これはただいま主管課長から答弁されて、民法の時効  
によらなければ解決できない。来年の三月に解決するということ  
で了承いたします。

それから、那古の学校林についてでございますけれども、ただ  
いまの御説明がありましたように、植樹しておる木が大きくなっ  
て売却した場合には、その全額を那古小学校の百年祭の費用にあ  
てるといふ契約でございますけれども、この学校林はもととは  
小原区の所有であつたものだと思います。これは区が学校にその  
当時寄付をいたしまして、学校ではこれを学校林としてずっと前  
から管理をして、植樹をして、学校の費用にあてていたというこ  
とでございます。その後、市制がひかれまして、自動的に市有財  
産に移つたわけでございます。ですから学校長と市との契約は、  
地方自治法の「旧慣による公有財産の使用」、昔からのならわし  
に關して公有財産の使用をうたっている二百三十八条の六「旧來  
の慣行により市町村の住民中特に公有財産を使用する權利を有す  
る者があるときは、その旧慣による。その旧慣を変更し、又は廃  
止しようとするときは、市町村の議会の議決を経なければならな  
い。」とありますけれども、この二百三十八条の六の意を尊重し  
て、この契約がなされたものであると、このように思ひます。で、

この学校林の現状を申し上げますと、上の山の半分は松でありま  
して、下は杉であります。非常にマツクイムシによつて荒らさ  
れておりますし、管理が十分とは言えない現状でございます。確  
かに管理委員会で管理することになっておりますけれども、資金  
等の面で非常にマイナスをきたしている面もございます。枯れて  
いる部分も多々あります。新しい苗木を植樹する必要もあります。  
これらの、地方自治法の精神にのっとりてそれを尊重した上で、  
それを踏まえて市当局としては、これら植樹に対して、草刈りの  
費用の一部をわずかでもいいから助成金として支出するとか、そ  
ういふようなお考えがどうか。参考までにお伺いしたい  
と思ひます。

。財政課長（長谷川広治君） 管理の職員構成の關係でございま  
すが、この点は四月から課内で調整をいたしまして、一名を管財の  
ほうに配置をして、なお管財点検の事務を積極的に進めていく、  
こつういふ方向をたどっております。

これは技術者ということになりますので、事務員ばかり多くし  
ても能率が上がらないということでございます。できるだけ増員  
の確保をはかりながら、そういう技術的なものもありますので、  
積極的に体制、それから、そういう仕事の上の積極さも加えて行  
なつてまいりたい、かように考えております。

それから市有地關係でございしますが、又貸しということは、私  
ども、名義人、契約書の名義者と実際の使用者の違いということ  
を又貸しといふうちにいたしております。この場合には私どもで  
きるだけ名義を変更してもらつたということを主眼に進めておりま  
して、又貸しを認める範圍と申しますよりも、直系の卑族であれ



貸所有権の貸借の名義を変更することを認めるといふふうに、ごく狭く考えております。ですから、直系以外のものにつきましては改めてその時点で再契約をお願いするという方向に進んでおります。

それから学校林の関係でございますが、これはいろいろ事情もあろうと思いますが、一応そういう事情であれば市有財産の管理というよりなものはなれまして、実質はPTAで御負担をしているよりな状況のように考えられますので、市長が申す負担軽減という意味からも応分の費用負担は考えてもよいのではないかと、いふふうに思いますが、これはいづれ教育委員会及び学校側とよく検討をいたして、のちにできるだけそのような方向で進みたいという考えでおります。

。八番（石井武敏君）　まず第一点の財産管理の方向づけでございますが、四月からもう一名増員すると、なかなかしろうとはできない技術的なものが必要だという答弁ですが、何かまだ、二名の調査員でやっていくということは非常に方向づけが弱いように受け取れますので、この点御検討いただきたいと思ひます。

又貸しにつきましては、できるだけそのきちっとした当事者と契約をとりかわすということでありましたけれども、これはやはり当事者でなければならぬのではないかと思ひます。いわゆる直系であれば認めるという返事もありませんけれども、私は、この点は当事者にきちっとすみやかにやらなければならぬ。できるだけではなく、すみやかに再契約をしていかなければならぬ。このように考えますけれども、この点どうでしょうか。

それから、ただいまの答弁の中に学校林についてでございます

けれども、一応いろいろな、そういうような学校林の植樹がマイナスになる面があれば、費用の面で考えてもよろしい、費用の負担を考えていきましようという答弁がありましたけれども、市長さんの考えを述べられたものとして承ってよろしいでしょうか。以上でございます。

。財政課長（長谷川広治君）　市有地の又貸し関係でございますが、私、舌足らずの説明でしたが、そういう直系の卑族であれば契約の当事者として自動的に認めてやろうということで、その時点でもちろん契約は更新をいたし、実際の使用者にかえていくということでございます。

それから那古の關係の若干の応分負担ということば、最初の話でございますが、まだ市長には申し上げてございませんが、市長さんも負担軽減ということとは十分考えられておりますので、若干のものであればお考えいただけるように考えております。

。八番（石井武敏君）　財産管理につきましては、今後とも目こぼしがないということをやっていたいただきたいということを希望いたします。

そして近親者に対しての契約等の問題でございますけれども、これも市当局としては、貸し付けしてある土地の利用者を、ときどき訪問して、そういうおそれのないように努力していくべきである、このように思ひます。

また学校林につきましては、市長さんどうでしょう。先ほどの課長の答弁を御意思として承ってよろしいですか。

。市長（本間 譲君）　よろしゅうございます。

。八番（石井武敏君）　次に通学路の問題でございますけれども、



通学路につきましては、次の点にわたって質問したいと思います。まず第一点が北条小学校に通学する道路、第二点が船形小学校の通学道路、第三点目は那古小学校における通学道路、第四点は相生橋から国道にぬけて通学路につかっている道路の信号機の設置について、この四点について伺おうと思っております。

まず北条小学校に至る通学路ですが、長須賀から新宿に至る通学路、市道、特に急カーブがあり、踏み切りを渡って通学する児童は危険にさらされておりますが、これらに対して対策は非常に緩慢であるように思います。ガードレールの設置も急務であろうと思われまじ、通行車を確認するためのカーブミラーの設置も急務であるように思われますけれども、この点どういうように考えておられますか。

それから船形小学校の通学路は農道の部分がありますが、これらの農道である通学路に対しては、市の考えは今後市道に認定していく積極的な考えがあるかどうか。また道路破損の場合の措置は主としてどのように考えているか。この点伺いたいと思います。なお、那古小学校に至る通学路につかっている道路に関しましては、非常に商店街が混んでいるところで、駐車違反の非常に目立っております。そのために、必要な道路の使用が非常に狭められているということでございます。これは取り締まればいいじゃないか。といえはそれまででございますが、通学する児童の立場に立って、また、それを見守る家庭の主婦の立場に立って考えますときに、これらの道路に対してどういうような対策があるかどうか。あつたらお聞かせ願いたいと思います。

それから相生橋のところの信号機の設置については、その場所

は砂利運搬トラック、あるいは白浜に抜ける車がふくそうしております。交通事故のないのがふしぎなくらいです。このように危険度の高い個所の信号機の設置の青写真、市当局にできていますかどうか。この点をお伺いしたいと思います。

以上、四点でございますが、お答え願いたいと思います。

。交通課長（山口 一君） お答え申し上げます。

まず第一点でございますが、北条小学校の通学路、長須賀から新宿を経て南町に至る線でございますが、御指摘のようにこの路線非常に交通事情の関係で、児童の危険度が高いわけでございます。実は先ほど市長のほうよりお話がございましたように、この四月の春の運動の一環といたしまして、通学路の総点検をやったわけでございますが、その際もこの個所が問題となりました。警察、それから市の土木関係、それから学校、教育委員会、それから私どもの交通課の合同点検の際の話といたしまして、一応根本的には人車の分離というのを考えたらどうかということになったんですが、御承知のとおり非常に路線の幅員が狭いわけで、ここで歩道を設置するというのがちょっと困難でございます。しかし片側だけでも設置すればというようにことで現在検討を加えております。

その歩道の設置の前に現在の対策といたしまして、一応新宿の踏み切りから長須賀の紅屋の間に至る間につきましての対策といたしまして、現在土木課のほうで長須賀よりのほうより、側溝を整備いたしましたして、そこをある程度歩道に見合うように整備をいたしまして、そこを通行させたらということで、現在工事を開始する段階になっております。本年度、また来年度を通じまして



一応踏み切り近辺ぐらゐまで側溝の完了をしていきたいというふうな関係になっております。

なお、ガードレールというふうなお話もございますが、御承知のようにあそこは非常に変則的な道路形態をしていますので、直ちにあそこにガードレールをつくるというのはいさよと問題がございまして、警察とか土木関係等と私どものほうで検討いたしまして、今後ガードレール設置について善処してまいりたいと思います。

それから第二点に船形小学校の通学路にございます農道の関係でございますが、この点につきましては現在も補修を加えてあります。御承知のように非常に狭いところでございますが、ここを拡張というふうなお話もあるようでございますが、農道の関係でございまして、私どものほうの一存ではまいりませんので、関係の機関と相談をいたしまして検討をしてみたいと存じます。

なお、破損等の場合には、その修理につきましては、通学路ということでございまして、重点的に考えてまいりたい、このように考えております。

それから第三点でございますが、那古小学校の通学路の関係でございます。これを御指摘のように釜屋交差点より那古小学校に至る線等でございます。これも幅員が狭く非常に危険であるわけでございますが、一応学校当局の御指導によりまして、現在までのところ事故というものもなく過ごさしていただいております。御指摘のように駐車とか、そういうふうなことで問題点がございまして、実はこれもこの前の通学路の総点検のとき、やはり問題になった個所でございますので、いろいろ現状を調査してみますと、

結局あそこは青果市場がございまして、青果市場に品物を持っていらっしゃる方々の車の駐車が非常に目立つということで、青果市場のほうで通学時間をはずすというように努力していただくというところで、その問題を解決してまいったわけでございます。今後も警察等と連携をとりながら、駐車の問題は児童の安全という見地から御遠慮願うというふうな指導してまいりたいと思います。

それから第四点の相生橋前の交差点の信号機の点検でございますが、実は信号機の設置につきましては、公安委員会におきまして五カ年計画が仮定されております。それで、その計画に基づいて市内の信号機設置が一応予定されておるわけでございます。本年度におきましては八幡のシーサイドホテルの交差点と、その上の八幡神社前の交差点に二機設置される予定でございます。そのような関係で相生橋の設置につきましては、昭和五十年に設置される計画になっておるようでございます。私どももあそこ交通事情は非常に危険性がございまして、なるべく早く、ここに設置をしてくれるように公安委員会のほうには申し入れてございします。

以上でございます。

八番（石井武敏君）　まず第一点の北条小学校に至る通学路でございすけれども、側溝にふたをして通学路を確保するという計画があり、本年から来年に実施するという事業計画でございす。これは地元負担がありますでしょうか。どうでしょうか。

それから、あそこに非常に狭い橋がございす。橋のところが非常に狭く、技術的に問題があるのではないかと思ひますが、この点は時間がありませんので、質問時間がもう真近に迫っており



ますから、非常に技術的に問題がありますので、よく検討していただきますと思います。

それから船形小学校の通学路については補修の必要がございますので、今後市当局の指導をよろしくお願いしたいと思います。

また交通問題全般についてでございますけれども、パトロールをした際にパトロールカードをつくったかどうかと思いますが、いわゆる駐車違反の車を見つけた際に、パトロールカーが口頭で言うのではなくして、カードをこの車につけていく。そういうやり方は非常にいいと思います。君津市の新日本製鉄の中の交通安全課はそれをやって非常に成果をあげております。その点いかがでしょうか。パトロールカードの作成はどのように思いますか。

。交通課長（山口 一君） 最初の長須賀方面の側溝の整備の地元負担ですが、地元負担はございません。

第二点のパトロールカードの作成は現実に私どものほうで実施しております。違法駐車の手両につきましては、警告書を現在も添付して反省をうながしております。

。議長（吉田勇治郎君） 以上で八番議員君の質問を終わります。午前の会議はこれにて休憩とし、午後は一時開会いたします。

午前十一時五十分 休憩

午後 一時 五分 再開

。議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。一八番議員安西益男君。

（一八番議員安西益男君登壇）（拍手）

。一八番（安西益男君） 私らは福祉施設の充実並びに公共医療施設の誘致及びくみ取り料金値上げ後の状況についてお伺いするわけ

でございます。一、二点につきましては、市当局としてどのように取り組んでおられるか。また今後どのように対処していかれようとするのか伺いたいと思うのであります。

御承知のごとくわが国の福祉対策は世界の現状から見ますにきわめて後進的な状況におかれておるのであります。これは国、県、地方自治体の政治の貧困、予算の配分に問題があるのであって、しよせんは人間軽視の政治姿勢と言わなければなりません。憲法二十五条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」とあります。ようやく昨今国の予算編成時には福祉予算がつつかれ、つつかれして考慮されてきつつあるとはいえ、まだまだお寒い現状であります。しかし、ところによってはい県、あるいは自治体で福祉施設の充実しておる個所も相当見受けられる昨今でございます。これは、それぞれ市の予算規模によりやむを得ない財政的事情も考えられますが、当市は予算から市独自の福祉施設をはかるには若干無理な面もあらうかと思ひますが、対象となる寝たきり老人、精薄児童、心身障害者等市内、あるいは安房郡市内一帯の該当者で、何らの政治の恩恵に浴し得ない方たちはたくさんおります。このまま放置しておくにはあまりに忍びないと痛感しておる次第であります。

館山市は、これら恵まれない方たちの救済に積極的に対処すべきだと思ひます。従がって安房郡市一体となり、当市がその推進母体となって、県に積極的にはかりかけ、それぞれの施設の実現に乗り出すべきと存じますが、どのように取り組むつもりかお聞かせ願ひたい。

次に公共医療施設、あるいは医療全体の件についてですが、こ



れも前に申しましたように国、県に働きかけ、その実現に努力すべき問題と思います。現状はきわめて深刻な問題であり当局も十分御承知のことと思います。広域圏約二十万に、対象公共医療施設の実現に積極的に取り組んでいただきたいと思いますが、これも郡市一体となつて行動を起こすべきであると思いますが、いかにようにお考えか、お聞かせ願いたいと思います。

次にくみ取り料金値上げ後の状況についてでございますが、料金値上げについて住民の苦情を解決するという事で承認を得て、料金の値上げが行なわれたのでありますが、いまなお、苦情解決に至っていないという面が見られますが、現状はいいがなんですか。この点もお聞かせ願いたいと思います。

以上です。

(市長本間 譲君登壇)

。市長(本間 譲君) 安西議員さんの御質問に対しまして答弁申し上げます。安西議員さんは福祉業務につきまして、日頃積極的に御協力をいただいております、まことに感謝にたえない次第でございます。

館山市は、皆さま方のお骨折りによりまして、館山市にとってはある程度のきめこまかい福祉行政が行なわれておるわけでございます。

ただいま安西議員さんから御指摘の寝たきりの老人、あるいは精薄児、身体障害者に対する施設等はまだできておらないわけです。これにつきましては、私は先般銚子で県下の市長会がありました際に、銚子でやっておる、そういう施設を見てまいったんですが、それに基づきまして、十日ぐらい前でしたか、福祉事務所

長をはじめ関係者を実際の視察を命じて、館山市としてはどのくらい該当者があつて、どういふものをやつたらいいかということ調査を命じておるわけです。

その結果によりまして、いろいろ対策を講じなくてはならないわけでございますが、銚子で私は見た範囲は、あそこでは寝たきりの老人がたくさんおりまして、それらの方々は寝たままお湯に入つて、四方からお湯と水が出てからだを洗える。こういうふうな寝たままのお湯に入れる施設もできていました。それは、聞いたら当時五十万ぐらいでできたとか、ああいうことも考えてやらなければ、ほとんど寝たきりの老人は、手足がきかない人が多くて、非常に不潔であるような人もおるわけでして、当市もその数を調べておりますが、寝たきりの老人の特別老人ホームということも検討してみたい。

それから精薄児に対する指導の施設、それから身体障害者に対する、これは授産施設ですが、そういうものを考えられるわけです。

これらは大体が県がやるべきことと思いますが、県のほうへ要請してみたいと思います。また、できれば現在安房郡市広域市町村圏というものができておりますから、十五日に管理者会がございますから、私はその会にも、広域市町村圏でそういうものをつくつたらどうかと、はかつてみようかと思つていますが、館山市でやるには、これは相当施設費もかかりますし、困難でしょうが、しかし、これは経常費については八割として国が出すというようなことを聞いておるんですが、経費も相当かかるし、いま基礎的な調査をやっております、その基礎的調査によつて県や、



何か、それを合わせて、館山市でもできればやってみたいと、こういうことで現在調査中でございますから、しばらく御猶予願いたいと思います。

いずれにしても、そういう方をめんどろを見ることは、今日大きな社会問題と考えておりまして、それにしても、そういう困っている人を皆さんの力で救済することは、ほんとうに私は立派なことである。また何としてもやらなければ、誰かが、市がやるか、県がやるか、広域市町村圏がやるか、とにかくそういう施設をすべきだ。こういうふうに考えておりまして、できる方法でこれはぜひやってまいりたいと考えておるわけでございます。

それから安西さんのお話が、医療関係のお話のように聞いておりますが、結局現在の状態では、まああまりそういうこともないけれども、交通事故にあってどこにもっていても、なかなか夜なんかでやってくれない。しまいに仕方ないから鴨川の病院に行っちゃってもらったという話もあるし、また夜、夜中に病気になるって医者のところへ飛んでいっても一向きてくれないとかで、医者にかかれずに亡くなるという、そういうような死人も中にはあることは存じておるわけでございまして、これにつきましては昨年でしたか、安房郡市の医師会にお願いして、何とかしてもらいたいという要請をしました。ところが前にも申し上げたと思いますが、つまり内科、外科両方は終夜診療しなければならぬわけで、それらの手当や何かが千二百万ぐらい程度かかる。これを何とかしてくれというのが医師会の要望であつたわけです。私はこれを携えて最初厚生省へ行つたわけです。厚生省ではそういう例は全国でもないんだというようなことで、しかし救急病院に対し

ては、わずかながら助成金を県が出しているというふうなお話でありました。今度は知事に対して、市長と知事との話し合いの会が昨年もたれたわけでして、そのとき私はその趣旨を知事に直接話しまして、県のほうでも助成金を出してもらいたいということ要望したわけですが、知事は「それは困ることだ。千葉県医師会と相談して善処します。」と、こういうことであつて、その後何とも言つてこないから、安房郡市の医師会の役員の方にも、県の医師会のほうに何とか聞いてもらいたい。もし、言つてきてなかつたら知事に請求してもらいたい。こういうふうをお願いしてあるわけでございます。

その後、医師会といろいろ相談の結果、病院の医者のことについては救急車を動かす消防署で、今夜どの医者がやってくれるとか、医者の状態を聞いておいて、そこへくれば今夜どこでやってもらえるとか、いろいろなことがわかるように医師会と話を進めている。つい先だつてそういう話になって、ですから救急車をお願いするあそこである程度お医者さんの状態もわかるといううりなことに一歩前進をしたようなわけでございます。

いずれにしても、夜、夜中に亡くなりそうになって、お医者さんが来てくれないという、こんな不幸なことはいけないし、また、そういうことがあつてはならないと思つて、これからもその線に沿つて医師会の方々にもお願いするし、県のほうにもお願いして、そういうことがないように善処をいたしたいと考えておるわけでございます。

それからくみ取り料金につきましては、三月市会におきまして大体従業員の待遇改善、それから機械の改善ということを主体と



して値上げを御了承願ったわけでございまして、その線に沿っていろいろ請負業者に指導しておるわけでございますが、いわゆる人頭割りの改正によりまして多少のことがあるらしいですが、その後のことについて、衛生課において主なる個所を選んでいろいろこちらからアンケートといいますが、そういうものを出していろいろの点を御回答求めたのが最近終わったわけですから、それに基づいて、これから支障のないような運営ができるように、厳重な監督をしていこうと、こういうようなわけでございますからよろしく御了承願いたいと思います。

○一八番（安西益男君） それでは若干お話願いたいと思います。いろいろと福祉施設についてはお骨折りをされているという御説明でございまして、この点につきましても、私たいへん前から福祉事務所長、あるいは安房支庁の福祉課長、田村課長とも会いましたお話しておるわけでございますが、県南にどうしても一カ所そういう施設をつくってほしいんだ、県の課長たちも強力に、何とかひとつ実現をはかってもらいたいというような意向が非常に強いわけでございます。

また民生員等でもだいが各部門に分かれて、その解決にあたっているということは聞いております。しかしながら、何としても財政的な問題で、当局としては早急にむずかしいんだというような、そういうた綱点のもとに検討されておるとはいいながら延び延びになっておる。そういうことでできれば市でやれるということになれば一番けっこうでございます。

あるいはまた、老人の人たち、精薄者、あるいは心身障害者、それぞれの施設となりますと膨大な施設の費用もかかりますので、

何にしても、館山だけでつくったにしても、近隣町村の人たちを収容すると、国から措置費というものが相当たいへんくるわけでございますけれども、その費用等もかかるわけでございますが、そういった、やはり館山だけの財政では、これの実現にはひまがとれるのじゃないか。当然市で先ほども申し上げましたように、館山市が中心となって、そして安房郡一体となった、いわゆる市町村長連名によって陳情、請願なり、そのような積極的な行動に移っていただきたいと、そうすることによって最近県におきまして、福祉行政につきましましては相当の関心が持たれているというふうに聞いております。最近は大々喜にもできるということは聞いております。ここから大々喜というところ、これはやはり実現されたいにしても非常に遠い感がありますので、県に対しての働きかけをしていただきたい、こう思うわけでございます。

先般、私も銚子から資料を取り寄せて見たわけでございますが、これはだいが前から、この施設等について相当力を入れてやっておるということを聞いております。当局からも福祉事務所長、保健課長というふうに市長の命によって現地を視察されてこられたということも聞いておりますが、そういった点で非常に市長も、その施設の実現にあたっては苦慮されておるということでございますが、いずれにしても広域的な立場でひとつ県にはたらかけていただきたい。そういうふうに願いたいと思うわけでございます。

次に医療関係の問題でございしますが、これは非常にデリケートといえましょうか、確かに問題は、この間の新聞紙上に出ておりました鴨川での例の問題もあります。これはごく一部の例でござ



いまして、常にああいうことがあるんだということは関係当局も十分御承知だと思ひます。いままでは事故等ありますと、特に救急ということになりますと、交通事故はその大半だと思ひますが、どこに連れていっていいかわからない。消防がきてもおそれ去年あたりは、これは、どこだという日にちとかがわかつておった、担当医がおったというふうに聞いておりますが、そういうこともさっぱり行なわれていないような現状にあるというふうに見られるわけですが、そういうった点で消防署はどんなふうに対処しておられるか。その点等もお聞かせ願ひたいと思ひますのでございます。

さらにまた、これはほんとうに円滑に行なうということになりますと、非常にこれまた館山市独自ではなかなかむずかしい問題である。したがひまして市長は非常に政府に対する要望というものは積極的に行なうまでもやっておられるのでございますので、この点も国、あるいは県に直接に大きな働きかけを、行動を起こしてもらいたい。まあお医者さんの御都合もございまいしょうが、人命にかかわるということは重大なことでございますので、これをひとつ安房郡一体となつて大きな運動を起こして、そうした医療施設を完備し、いつでも安心して住民ができるという、そういう方向に積極的に行動を起こしてしてもらいたい。このように感ずるものでございます。

それから最後にし尿の問題でございます。市民の苦情を解決しより、従業員の報酬もほんとうに気を入れてやりたいんだ。そういったもとに業者の申請に対し、議会が承認したわけでございますが、依然としてそういった苦情というものは確かに各所にある

ということとは、私も現場を何か所か聞いております。そういう点でのちほど。この辺検討の結果等もお聞かせ願ひたいと思ひますが、いわゆるあり方について、私は館山の場合は一個人のそうした営業的なそういうった面に問題がなかなか解決していかないんじゃないか。そんなふうに考えるわけでございます。いろいろと小型車を用意することも要望してございますが、なかなか受け入れていただけません。聞くところによりますと、御主人が一台でやっておる、病気になればいつになるかわからない。そういうことが放置されておる。

それから、なおお聞かせ願ひたいということはくみ取りの申請世帯は館山で大体何世帯か、一日何台で何世帯くみ取りの仕事をやっておるかという点をちょっとお聞かせ願ひたいと思ひます。その点よろしくどうぞ。

。交通課主幹（岩田 実君） 救急の状況につきまして御説明申し上げます。確かに先般新聞紙上に出ましたように、東京都下からヘリコプターで搬送されました患者を収容する病院がございまして、万やむを得ず鴨川の病院に搬送したという一例があったわけでございます。

市内の病院がまたまどちらでも御用がおりになつて収容できなかつたということでございますが、その直後に市長より特別な命令がございまして、保健課長立ち合いのもとに医師会と話し合つて、そういうことのないようにせいという命令がございまして、先般消防署長はじめ保健課長、われわれ、医師会と、会長さんはじめ幹部の方々とお話し合ひしたわけでございます。

まず消防署で、当日内科、外科のお医者さんで診療可能な病院、



診療所をあらかじめ把握しておきまして、救急事件が発生した場合にはその病院なり、救急診療所なりへ搬送する。また家庭で急病になられました、消防署へどこの病院、診療所の先生がおられるかという問い合わせがあったときには、すぐお知らせして急場を間に合わせる。そういうような話し合いがつきまして、その後円滑に行なわれておる次第でございます。

なお、万やむを得ず、どうしてもその際に病院、診療所で診療不可能の場合には、今回四月一日から安房郡市の広城市町村圏の消防も発足しまして、千倉、鋸南、鴨川にも救急指定病院が何カ所あるわけでございますので、市内の病院、診療所でどうしてもいけなかった場合には、やはり一番近い、そういったような救急病院に搬送をして、不都合のないようにしたい。このように現在対処しておる次第でございます。

その後、特に夜間の診療、あるいは交通事故等の重患の出た際に、診療に間に合わなかったというようなことは一件もないような次第でございます。

。衛生課長（牧野喜一君） お答えいたします。し尿のくみ取り料金値上げ後におきまして、若干私どものほうへも照会、あるいは苦情等もございます。と申しますのは、御承知のように人頭制のうち、いままでたとえば三人から五人が幾ら幾らというふうに料金のきまりがあったのを、全部三人で幾ら、四人で幾ら、五人で幾らというふうになりました関係で、業者のほうの台帳の人員の間違いによって料金徴収が誤まったというようなことがございまして、これが直ちに業者のほうへと指導いたしましたして、訂正いたしました。

御承知のように、値上げと同時にくみ取りの対象世帯全世帯からくみ取りに関する申請書を出していただきまして、これによってくみ取りに関するあらゆる条件を調べたわけでございます。それで、それを基本にいたしまして、業者のほうの台帳と照合したわけでございます。これはいままでの業者のほうの実績等と机上面で照合してございますので、御指摘のように人頭制、あるいは重量制の適用の、若干問題があるものもあるかと思っております。で、幾つかは現場につきまして、住民の言い分、業者の言い分等を両方立ち会わせてまして、私どものほうで判定したものもございまして、事務の都合上全部はまだ終わっておりませんが、こういったような疑問の点につきましては逐次現実立ち会って判定をし、正確な台帳としてまいりたいというふうに考えております。

ただ、この場合御承知のように、最近改良便槽ができてまいりまして、くみ取り式でも水を使うものがあるというようなことで、これが、非常に、住民の方は人頭制というふうにお考えになつてゐるし、業者のほうでは相当の水を使って量がふえるから重量制にしてほしいというような問題がございまして、これもいろいろ立ち会ひまして、ケースによって、こういう式のものにつきましては重量制を適用するんだというふうにきめたものもございまして、そういうようなわけでございまして、逐次改善されつつあります。それから、御指摘の小型車によるくみ取りでございますが、確か山中の主人がみずから運転しておりますので、病気の場合くみ取りの遅れをどうするかという問題がありますので、私のほうから申し入れまして、主人が病気等でできない場合は、それにかわる者を充当するようというふうに指導しております。これも、す



七内 加

ぐというわけにはまいりませんが、しばらく時間を借してほしいという返事がきております。以上、その後における状態でございます。

それから、くみ取り関係の調査をした結果の戸数でございますが、八千四百二十六、これは、このうち七千二百十三戸が一応現在のところ人頭制を適用したい。それから、その他のものが重量制を適用したい。これを現在七台で実施しておりますので千ちょっと、一カ月のくみ取りの一台あたりの戸数になります。

ただ小型につきましては、戸数が九百七十でございますので、約一台あたり平均千少々の世帯を回る、また内容については月二回汲みのものもございますし、そういうようなことでございますがおおよそ、そういうような次第でございます。

以上でございます。

一八番(安西益男君) 七千二百十三世帯を小型を入れた七台でそうしますと、二回くみ取りになりますと、手が回らないわけですよ。三十日やって一台千軒、そういうことは非常に勘定が合わない。ですから無理があるということははっきりわかるわけです。当然、一カ月一台が千軒、七台で七千軒ということになります。その中には二回以上くみ取りするところがあるわけですから、とても手が回らないんじゃないかということがいえるわけです。その点の非常にギャップといいますか、食い違いが感じられるわけです。

ですから、非常に料金の問題はともかくとしまして、苦情があつて、くみ取りにきてもらいたいということが、まだ解決されてないという問題、その問題も、相当やはりこれは残るわけござ

います。そういうことで件数とくみ取りのあれが合いませんので、その点もどういうふうに考えておられるか。指導されておられるかということですね。

それと値上げの理由としまして、従業員の報酬についてということもあつたわけでございますが、その後様子を見ますと、ほとんどあまり大して上がってない。このように聞いておるわけでございます。実際にその点ほどのくみを予想して申請されたか。現在どのくらい支給しているのか。という点までこれはわれわれとしても知っておかなければならない。また知らしてもらってもけっこうだと思ふんですが、そういう点おわかりになりましたら教えてもらいたい。

それから、小型車は一台では当然少ないわけでございます。その点も、今後やはり非常に狭い道等がございまして、そういう点の解決方法が、話し合いが進んでおるかどうか。そういう点もひとつおわかりになる範囲で。

それと那古で一カ所、実は先ほど石井議員のほうからお話があった田村市長の貸し家の建っている、あそこは建てから十年くらい、大体それくらいたつておると思いますけれども、依然としてくみ取りができない場所になっておる。あそここの建築自体は、道が図面にあつたにしても、通る道がなくて、線路のところを渡って住民の人が入つておるというよりなこと、いままであの辺はみんなぶちまけて、というより穴を掘ってやつておつたわけです。非常に付近の住民から苦情があつたわけです。

そういう点も、今度一中校舎もできますから、向こうから当然入れるわけですから、道路の、まだ解決しておりませんので、



あそこを広げてもらって、七、八軒あると思いますが、その点解決の方向にいてももらいたいと思いますが、ああいうところに家を建てる、もと市長さんという肩書で、入っていかなければならぬところ、あるいは建築がどんなふうにして許可になったか。この点私見守って、うまくもと市長が、田村さんがやったんかなというふうに感じますけれども、非常に疑問のある個所でございますが、それはそれとして、そういった住民が、今後あそこの中の一の中入り口から入っていかれますので、これもひとつ十分御検討願ひ、ひとつ解決していただきたい。こういうふうに感ずるわけでございます。それから医療問題でございますけれども、最近非常にそういった体制が、話し合いのもとになされたということでございますが、往々にして、時間的に非常に、それぞれ医者さんの準備といひますか。体制といひますか、あるわけでございますが、これはとても手に負えないということで、千葉あるいはよそに重病人を、ここで手に負えない病人の人を千葉あたりへ早速いってくれということは、途中で死んじゃうわけですよ。

そういったことで完備した医療施設というものはどうしても必要なんだということで、そういった点で医者さん同志の情報網そういった情報が密接にとられているのかどうかという点にも非常に問題点があると思うんです。私のところはできないから送っちゃうんだというようなことは、これはやはりなかなか非常に重大な問題でございますが、そういった点で医師会の意向等も、やはりその医師会の中の横の連絡が密接にできているのかどうか。そういった点も十分御検討願ひたいと思うわけです。

そういう点でいろいろ大きな問題がございしますが、なかなかめ

んどいな点もございすけれども、先ほど申し上げましたように重大なる問題でございますので、ひとつこの点につきましても、そういった医療施設の完備した個所を、広域圏の館山市が中心となって運動を起こして、その実現にひとつ大いに努力願ひたい。この点はいろいろと今後の折衝に願ひたいと思うわけでございすので、これは強く要望しておきたいと思ひます。

それから福祉関係につきましては、先ほどちょっと申し上げましたように、憲法にも「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」という説明がございすが、地方自治体としても、この憲法にあります。これはどんなふう、地方自治体はそんなもの関係ないんだというふうにお考えになつておられるとは思ひませんけれども、地方自治体としての、この点についての考え方について、助役さん、もしお聞かせいただければ幸ひでございますが、その点よろしく。

。衛生課長（牧野喜一君）　くみ取りの二回取りでございますが、現在のところ八百六十戸でございます。したがしまして、一般家庭の七千二百十三戸に八百六十をたしまして、全館山市内を小型を入れまして七台で、千ちよつとの一カ月の受け持ち戸数となります。

それから次は、従業員の待遇改善でございますが、私のほう文書で待遇改善状況を調査いたしました。現在のところ値上げ後は値上げ前に対しまして給料等全部合計しまして一三〇%、約三割の値上げを見ております。

小型等の、あるいは二回くみ、そういったような特殊なことをなるべく能率的にやっていくということで、機械器具の整備状況



これは全くみ取り車に対しまして、一台二十二万で自動ホース巻き取り器、これを装備いたさせました。それから相当な悪臭が出るということで脱臭器をつけるように前から言っておりますが、大体六万程度でございますが、現在三台装備しまして、いろんなメーカー等もございますので、テスト的に実施していく。これの購入先がきまれば、全車に備え付けるといふようなことでございます。そういうようなことで現在待遇改善並びに能率化をはかっております。

それから、那古のそういった道の不便なところ等、新しく申請が出ますれば、よく調査して小型でできるものならば、これを実施したい。

以上でございます。

。助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。この身体障害者関係の福祉施設につきまして、この県南に一カ所ぐらい館山を中心としてつくることについてということでございますが、まことにこれはごもっともなことでございまして、先ほど市長が申しましたように、市長もこのことにつきましては、大変関心を持ちまして、先般職員を先進地の方に視察にもやっております、いろいろ研究されておるところでございます。

そこで、この十五日に広城市町村圏の管理者会議もあるようでございまして、そこで市長さんも、いろいろそういう面について話し合いを持とうということでございますので、今後われわれといたしましては強く県、そしてまた衛生部のほうに、社会部のほうにも連絡を密にいたしまして、そういった方向で努力してまいりたいかように考えております。

。一八番（安西益男君） 憲法にも書いてございますが、これはよろしく願いたいと思います。

それで現在ところどころ衛生課で監視員の人が始終見てもらいたいと思います。お忙しいと思いますが、たいへんこの点では苦慮されているという点は十分わかります。よろしくひとつ住民の要望を解決できるように方向にひとつ積極的に取り組んでいただきたい、このように思うのであります。

それとせっかく銚子で担当の各保健課長さんですか、福祉事務所長さんが行ったというふうに聞いておりますので、館山市としては行って視察されて、館山市はどう対処していけるか、そういったお考えがある程度は煮詰まってきたんじゃないかと思っております、その感想といえますか、報告といえますか、それをお聞かせ願えればと思います。

。保健課長（網島憲治君） 私ども市長に命令をされまして、銚子に視察に行ったわけでございますが、確かに非常にすごい施設であつたわけでございます。しかしながらたいへんお金もかかりまして、いずれにしても現在のところ市長さんのほうで基礎的な数字を取りまとめております。

それから市と、助役からも答弁があつたような次第でございますので、それぞれの条件が具備されますれば、当然そういうようなことになろうかと思えますけれども、いずれにしても財政等のかね合い、たとえば県、そういった方面の動き、こういったものを十分にらみ合まして検討すべき問題であろう、このように考えます。



○一八番（安西益男君） それではほとんど時間もないようでございますので、以上の点、お願いしました点につきましては、また県との折衝の結果等も逐次ひとつ御報告願いたいと思ひまして、終わりたいと思ひます。

散

会 午後一時五十二分散会

○議長（吉田勇治郎君） 以上により通告による質問を終わります。よって今日の会議はこれにて散会いたします。次会は六月九日午前十時開会いたします。その内容は、各議案の内容審議を行ないます。長時間御苦勞さまでした。

○今日の会議に付した事件

一、行政一般質問



